

タカチホヘビ *Achalinus spinalis* Peters

【選定理由】

夜行性であることから確認例が少ない。分布域は広いようであるが、個体数など不明な点が多く実態が明らかではないことから、評価を情報不足とされた。

【形態】

頭部は細長く、くびれはほとんどない。眼は小さい。体背面は紫がかった赤褐色、光沢があり、背中線上を細い1本の黒色縦条が頸部から尾部にかけて走る。体鱗はビーズのように盛り上がり真珠光沢がある。鱗は重ならず、間に皮膚が露出する。胴体中央の体鱗は23列でキールを持たない。他のヘビは尾下板が対になっているが、本種は単一であることから区別出来る。腹板数は、145～170枚。瞳孔は円形。体長30～60cm。

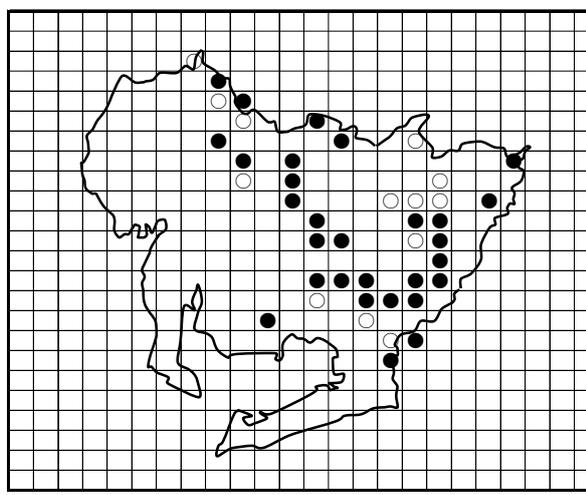


豊田市 (旧小原村), 2015年8月6日, 島田知彦 撮影

【分布の概要】

同種とされる集団は中国中南部からベトナム北部にかけて生息するが、日本本土の集団とは地理的にも大きく離れており、別種である可能性が高い。国内では本州、四国、九州とその周辺の一部の島嶼に分布する。県内では丘陵部から山地にかけての記録が多いが、名古屋市内でも記録がある (西尾・川瀬, 2017)。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

生息環境は森林で、山地の溪流沿いや林道上で見つける機会が多い印象があるが、平野部の社寺林にも生息することがある。乾燥にはきわめて弱い。地中性で夜間に活動し、ミミズを食する。6～8月頃3～13個の卵を産む。

【現在の生息状況／減少の要因】

地中性のため、生活史には不明な点が多い。おそらく湿潤な森林環境を好み、土地改変や公園管理等による森林の乾燥化は本種にとっては悪影響を及ぼすと考えられる。

【保全上の留意点】

丘陵地等の開発では、湿潤な森林環境を保全する。

【特記事項】

生まれたばかりの幼蛇は全体に黒っぽく、背中線条が目立たない。

【引用文献】

西尾和久・川瀬基弘, 2017. 東海地方におけるタカチホヘビ *Achalinus spinalis* の確認記録と生息環境. なごやの生物多様性 4: 31-41.

【関連文献】

安井謙介・浅香智也, 2011. 愛知県豊川市で採集されたタカチホヘビ及びシロマダラ. 豊橋市自然史博物館研報 (21): 27-29. (島田知彦)